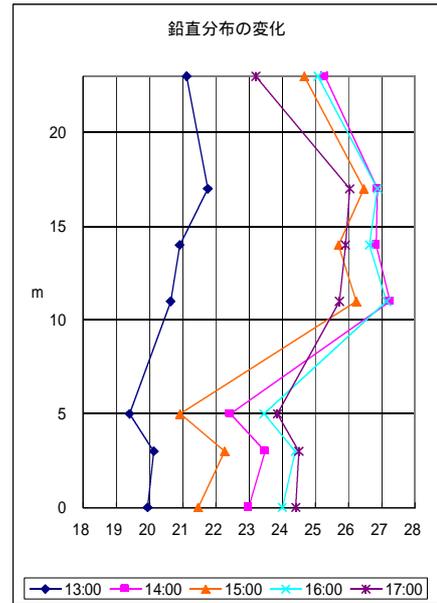
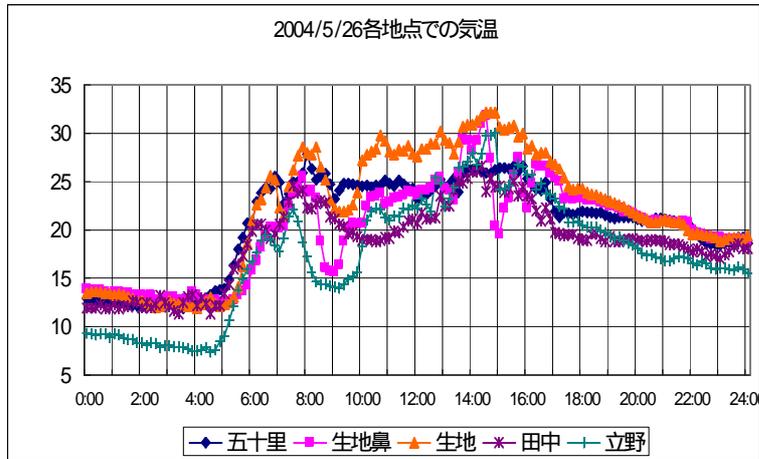


4. ライブカメラと気象データとの比較

カメラによる映像の変化が、気象データにどのような様相にあらわれているかを、層気楼の発生日2004.05.26(ランク: B ~ A) で検証してみた。

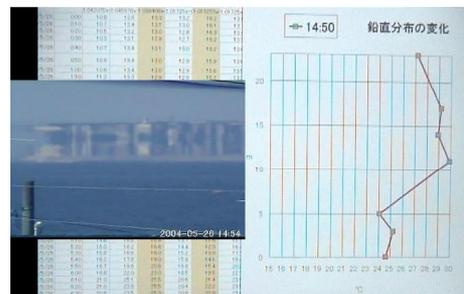


同日の層気楼発生時刻は、魚津埋没林博物館の記録では13:50~16:30である。各地での気温からは14時過ぎに気温のピークを迎えている。また、石田フィッシャリーナでは、層気楼発生時において海拔10m以上で強い暖気移流を観測している。風は、層気楼の発生時刻には日本海から北東よりの風で田中、五十里を送風し、生地、魚津では北北東よりに変化している。これらのデータは、我々が過去の観測から得た層気楼発生時の気象の特徴を顕著に示している。次に気温の鉛直分布の変化とライブカメラの映像を時間を追って比較してみた。

比較の結果、気温鉛直分布が示す暖気移流時には、層気楼の像も顕著になることが分かり、結果、石田フィッシャリーナで観測される暖気は、層気楼を形成する大きな要因となることが確かめられた。



12:00



14:50

5. ライブカメラの教育的活用

ライブカメラの映像は、インターネット環境が整っているパソコンであれば、どこからでもリアルタイムで見ることができる。滑川高校では学校のHPにライブカメラの画像をリンクさせ、生徒が自由に教室等から見ることができるようにした。昨年(2003)の5月26日、午後1時45分頃から変化が始まった層気楼では、休憩時間にHPを見ていた生徒の知らせで、6限目(14:25~15:15)の理科を層気楼観察に変更し、肉眼で生徒に層気楼を見せることに成功した。生徒は一様に感嘆の声を発し、興味深く観察していた。

授業で実際の層気楼の観察が可能となったことで、生徒には、これまで以上に地元の自然現象に興味・関心を持たせることができ、郷土の自然環境を守る意識を育てることができるようになった。

謝辞 本研究は、一昨年の層気楼交流会(2003.6.1開催)での、福島県会津若松市星弘之氏の発表を参考にし、システムの構築には星氏より数々の助言を頂いた。ここに厚くお礼を申し上げる。